



京都大学フィールド科学教育研究センター
上賀茂試験地
Kamigamo Experimental Station, Field Science Education
and Research Center, Kyoto University



< 報道発表資料 >

令和 6年 1月 30日

国立大学法人京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地
武田薬品工業株式会社京都薬用植物園

京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地と 武田薬品工業株式会社京都薬用植物園との事業連携を目的とした協定締結について

国立大学法人京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地（所在地：京都市北区上賀茂本山、施設長：館野隆之輔、以下、上賀茂試験地）と武田薬品工業株式会社京都薬用植物園（所在地：京都市左京区一乗寺竹ノ内町、園長：野崎香樹、以下、京都薬用植物園）は国際種子交換事業をはじめとする植物の栽培や植物資源の栽培・保全にかかわる分野での事業連携をすることにより、国際的な社会貢献活動の展開や生物多様性の保全、植物園機能の充実、専門人材の育成、環境教育の発展などに寄与することを目的に連携協定（以下、本協定）を締結します。

■本協定の名称

京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地と武田薬品工業株式会社京都薬用植物園の連携に関する協定書

■協定締結日

令和 6年 1月 30日

■協定締結の目的

両者がこれまで実施してきた国際種子交換事業をはじめとする植物の栽培や植物資源の収集・保全などの分野で連携協力することにより、国際的な社会貢献や生物多様性の保全を図り、両者の施設機能の充実、専門人材の育成、環境教育の発展に寄与するため。

■本協定の下で行われる連携事項

1. 国際種子交換事業の連携

国際種子交換事業とは世界各地の植物園や研究機関の相互協力のもとに、それぞれが採集した植物の種子を無償で提供しあうもので、毎年、提供可能な種子のリストを交換し合い、その中から希望する種子の発送を依頼する仕組みです。上賀茂試験地では、設定当初より海外の教育研究機関や植物園等と交流を持ち、国際種子交換事業により、数多くの外国産樹木の種子を収集し、種子から樹木の育成を行っています。しかしながら近年、職員の削減や業務の多様化、遺伝資源の輸出入に関する手続きの煩雑化などにより、種子の発送に関する人的労力の負担が増し、これまで通りの事業の継続が困難な状況になっていました。このため、同じく国際種子交換事業を通じて国際的な社会貢献活動を展開している京都薬用植物園と事業連携することにより、これらの人的労力を補うことはもとより、両者がこれまで構築してきた海外とのネットワークや種子の採取・精選・管理手法などを共有することといたしました。これにより、これまで以上に幅広い国々に対象を広げ、より充実した国際種子交換事業に発展させることが期待できます。



2. 植物の栽培に関する連携

上賀茂試験地では、主として外国産樹木を育成しているのに対し、京都薬用植物園では、薬用植物を中心に育成しています。このように対象とする植物は異なるものの、ともに数多くの植物を栽培しており、両者が保有する植物栽培に関する情報や技術、研究記録などを共有することにより、お互いの栽培技術の向上や新たな栽培手法の開発につながることを期待できます。



3. 植物資源の収集・保全に関する連携

上賀茂試験地では、世界各地に分布する約 100 種のマツ属のうち、約 80 種が生育しており、国内では貴重なコレクションとなっています。京都薬用植物園では、薬用植物を中心に、約 2,900 種の植物を保有・栽培しており、絶滅危惧種などの希少な植物も収集しています。両者が連携することにより、両者が保有する貴重な植物資源を相互で保全し、お互いの植物園としての機能を充実させるとともに、生物多様性の保全に貢献することにつながります。



4. 植物資源を用いた教育・研究・社会貢献活動に関する連携

上賀茂試験地は、学生や研究者による森林や樹木等に関わる研究や教育活動に利用されているほか、一般市民を対象とした自然観察会などの社会貢献活動を行っています。同様に京都薬用植物園でも、薬用植物に関する研究や教育活動、一般市民を対象にした研修会を行うなどの社会貢献活動を行っています。両者が連携することにより、それぞれの得意とする分野を生かした研修会等を共同開催するなど、より高度な専門分野の人材育成や環境教育の発展につながることが期待できます。



■フィールド科学教育研究センターについて

フィールド科学教育研究センター（以下、フィールド研）は、京都大学が長年にわたって森林域、里域、海域の教育研究の現場としてきた 9 施設が集まり 2003 年に設立されました。太平洋側から日本海側に至る近畿圏を中心に、北海道から山口県までの広域に施設を持っています。

フィールド研は、学内共同教育研究施設として、京都大学の各研究科の学生の教育や、教員による研究を支援するとともに、全学共通教育への科目提供や、農学研究科、理学研究科への協力講座に参画して大学院教育および学部教育を行い、大学院地球環境学舎に協力分野として参画しています。さらに、学内外の学生や研究者の教育研究を支援しており、5 施設（3 拠点）が文部科学省から教育関係共同利用拠点に認定されています。所属教員の専門分野は多岐にわたり、森－里－海の連環を軸とした教育・研究を進めています。

■上賀茂試験地について

本試験地は 1926 年に農学部附属演習林の一施設として設置され、1949 年に現在地（京都市北区上賀茂本山 2）に移転しました。総面積は 47.0ha で、その 65%を占める天然林はアカマツを中心とした二次林でしたが、1960 年代から発生した松枯れの影響により激減し、現在はヒノキとコナラなどの広葉樹を中心とした混交林に遷移しています。

設置当初より世界各地の教育研究機関や植物園などとの相互協力のもとに種子交換事業が行われ、多くの外国産樹種の導入が進められました。特にマツ属を中心とした外国産針葉樹の収集と育成に重点が置かれ、生育の良い種については見本林として成林しており、成長量の調査などが行われています。

京都大学本部から北へ 5km と交通至便で、森林学や生物学分野をはじめとする幅広い分野における試験研究および実習の場として、京都大学はもとより、他大学、他機関からも数多く活用されています。

近年は天然林の成長と植生変化の観測、人工林の成長や生存調査、モニタリングサイト 1000 事業のコアサイトとしての調査、気象観測などの基礎データを蓄積しつつ、樹木園および見本林の管理と再整備を行いながら、新たに森里海連環学に基づく新しい里山・里海の共創に向けた教育・研究・社会貢献活動に取り組んでいます。



■武田薬品工業株式会社について

武田薬品工業株式会社（TSE：4502/NYSE:TAK、以下、武田薬品）は、日本に本社を置き、自らの企業理念に基づき患者さんを中心に考えるというバリュー（価値観）を根幹としたグローバルな研究開発型のバイオ医薬品のリーディングカンパニーです。武田薬品は、「すべての患者さんのために、ともに働く仲間のために、いのちを育む地球のために」という約束を胸に、革新的な医薬品を創出し続ける未来を目指します。研究開発においては、オンコロジー（がん）、希少遺伝子疾患および血液疾患、ニューロサイエンス（神経精神疾患）、消化器系疾患の4つの疾患領域に重点的に取り組むとともに、血漿分画製剤とワクチンにも注力しています。武田薬品は、研究開発能力の強化ならびにパートナーシップを推し進め、強固かつ多様なモダリティ（治療手段）のパイプラインを構築することにより、革新的な医薬品を開発し、人々の人生を豊かにする新たな治療選択肢をお届けします。武田薬品は、約80の国と地域で、医療関係者の皆さんとともに、患者さんの生活の質の向上に貢献できるよう活動しています。詳細については、<https://www.takeda.com/jp/>をご覧ください。

■京都薬用植物園について

京都市左京区に位置する京都薬用植物園は、1933年3月29日『京都武田薬草園』として創設され、薬用植物の基礎研究を開始しました。その後、1994年まで、研究部門の一部として、天然物由来の新しい医薬品の創出や薬用植物の品種改良の研究を行いました。1994年に名称を『京都薬用植物園』に変更し、薬用植物を中心とした植物の収集・保全活動および教育支援を行う施設となりました。2023年2月には、薬用植物園で初めて博物館相当施設に指定される等、武田薬品の社会貢献活動拠点としての役割を果たしています。

現在、94,000平方メートルの敷地の中に約2,900種の植物を保有しています。このうち約1,900種が薬用植物で、242種が環境省版レッドリストにランクされている絶滅危惧種です。当園の目的は、①絶滅危惧種など重要な薬用植物の収集・保全、②薬用植物の栽培研究と技術の継承、③医療関係者、学生、児童への研修、教育支援活動の3つとなっており、2000年頃から生物多様性保全に関する取組を強化しました。園内では、薬用植物および絶滅危惧種の収集・保全に加えて、ナショナルコレクション認定品種群を含むツバキのコレクションの保全も行っています。

希少な薬用植物の保護・保全の観点から自由に見学していただける一般公開はしていませんが、完全予約制で園内の見学は可能です。見学のお申込み、見学可能な日時などの詳細は、<https://www.takeda.co.jp/kyoto/>をご覧ください。

